



2023年2月13日

日本鉄道労働組合連合会

## 貨物鉄産労「第36回中央委員会」開催！

貨物鉄産労は2月6日、福岡市内で「第36回中央委員会」を開催した。メインスローガンに「更なる組織拡大を図り、飛躍の年としよう！」を掲げ、2023春季生活闘争方針や統一地方選挙への対応をはじめ、当面する活動方針を決定した。

### 2023春闘「ベア獲得」、さらなる組織拡大を！！

#### 貨物鉄産労第36回中央委員会



冒頭、挨拶に立った大杉正美中央執行委員長（JR連合副会長）は、コロナ禍やウクライナ戦禍等による経営への影響・現状認識を述べた。そして、2021年12月の山陽本線脱線事故や死亡労災をはじめとする重大事象を教訓として安全の確立に取り組むことや、ドライバーが運輸業界で不足するいわゆる

2024年問題やカーボンニュートラル実現にむけたモーダルシフトへの対応、北海道内輸送や青函共用走行に係る課題に対応するべく産業政策活動に尽力すること、そして2023春闘では各種労働条件を『働きの価値に見合った水準』へと引き上げる要求を掲げることを表明した。また東海地区における連続組織拡大に触れ、一丸となって組織活動を展開する決意を述べ、交運共済の契約移転の取り組みも要請した。

JR連合からは、来賓として政所大祐事務局長と相良夏樹組織局長が出席。代表挨拶に立った政所事務局長は、JR連合結成30周年の節目に発した5提言にも触れつつ、今後、政治・行政・社会との対話を一層重ねていく決意を述べた。また職場から安全を確立していくことや、組織ネットワークの強化と継続的な取り組みの重要性を述べ、その実践を要請した。さらには、産業政策・労働政策に引き続き注力する決意を述べた。



議事では、執行部から「定期昇給の完全実施」に加え、「3,000円の純ベア」「諸手当等の改善6,000円以上」「期末手当年間4.5ヵ月以上（夏季2.1ヵ月以上、年末2.4ヵ月以上）」の要求を掲げる2023春闘方針や当面の活動方針等が提起された。8名から春闘方針や労働条件・環境、安全衛生、職場のコロナ対応、組織拡大・強化等について質疑や発言が行われた。



中間答弁および辻村和裕書記長の総括答弁を経て、全ての議案が満場一致で採択され、最後は大杉委員長が団結がんばろうで締めくくった。

